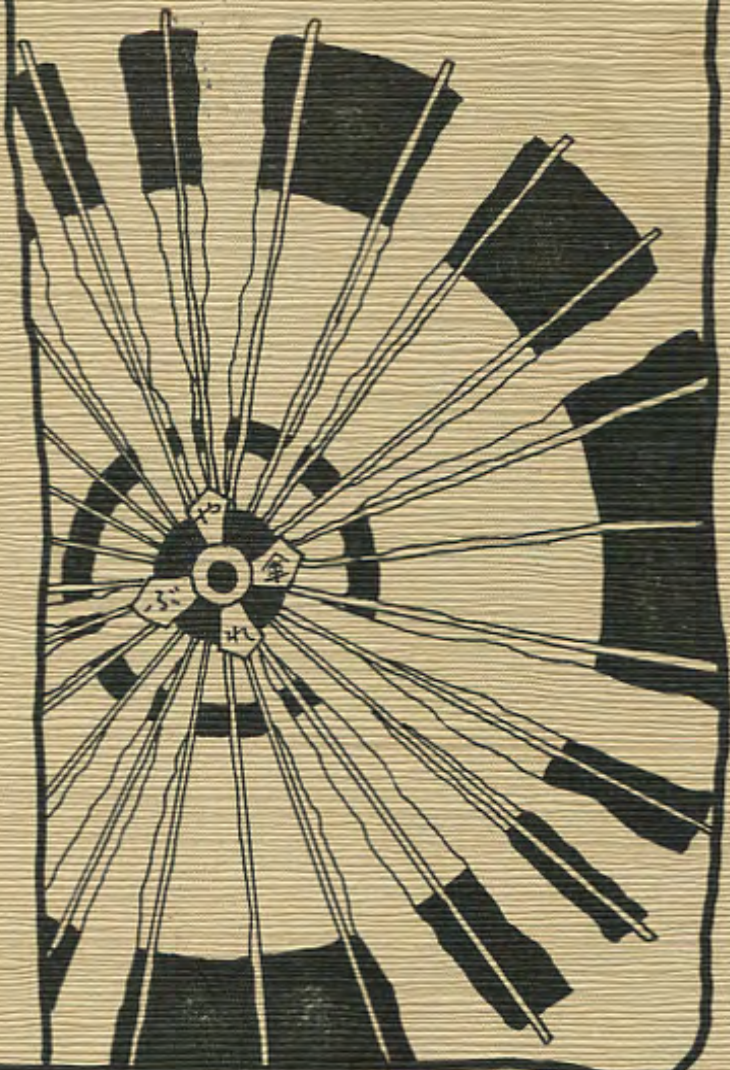


やぶれ傘



七十五号

二〇二三年十二月

隣りより日のさして茶の花の垣 根橋宏次

青空の中より林檎挽ぎにけり 廣瀬雅男

里芋に箸刺してみる煮付けかな 丑久保勲

葱の葉の買ひ物籠に曲がりをり きくちきみえ

湖に岬の見えてうろこ雲 大島英昭

天守閣跡のベンチに日向ほこ 瀬島洒望

穴感ひ天狗山にてぼつたりと 白石正躬

窓よりの光に林檎美術室 安藤久美子

方丈の千の瓦に冬日照る 藤井美晴

からすなくこゑのとほのき冬の月 渡邊孝彦

冬日さす鼻の歪んでゐるやうな 小山陽子

夕日浴ぶ幅十間の柿すだれ 久世孝雄

騎馬戦の大将落馬いわし雲 有賀昌子

凧の夜更に使ふ電子辞書 國保八江

竿たたみ魚籠ひきあぐる虎落笛 石原健二

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大 崎 紀 夫 選

団栗の掃き寄せてあり社裏 上林富子

芒野や顔を並べて風の牛 菊地葉子

幸せはこんな匂ひよ秋刀魚焼く 武田紀久

神牛の鼻づらなでて秋深し 時田義勝

黙々と歩荷の行けり落葉道 中村則夫

土埃立てて騎馬戦天高し 貫井照子

目指したる山頂近し鱗雲 野口希代志

かはたれの霧の灯ゆらりゆらりかな 萩原溪人

篝火の木の香色なき風に乗る 橋本美代

放し飼ひのイグアナ探す日の盛り 松本正生

群雀長き稲架より音たてて 山本千夏

集会の人みな散じ鉦叩 秋山信行

衣被「夫婦善哉」読み止して 浅嶋 肇

秋鯖の腹ばんばんの縞模様 泉 一九

補助輪をはづす練習天高し 岩藤礼子

方丈

藤井美晴

台風の夜中に過ぎてゆきにけり
鋼切る音 飯桐の実の赤く
常盤木の幹 這ひ上る 蔦紅葉
ジャズバーへ下る石段 月明かり
尉鵯葉の落ち 尽くしたる枝に
草に座す猫にも 雲ふ夜寒かな
枝の影 露台に 黒し 冬の月
昼寒し 墓と墓との隙を 来て
方丈の千の瓦に 冬日照る
冬の日の戻れる道の影 法師

冬の月

渡邊孝彦

秋の磴木洩れ日は大銀杏より
校庭にロープの張られ赤のまま
崩れたる磴の取っ付き猫じゃらし
小流れの水澄む馬頭観世音
行く秋の水音を聞く田のほとり
神留守の杜で見渡す田の並び
草枯れの畑に鋤の入れられて
谷戸の田を一巡りする日短
からすなくこゑのとほのき冬の月
侘助へ朝の日差しの束の間に

掃除機

小山陽子

車窓より背中に温き秋日差
颱風の来さうで来ない夜の頭痛
掃除機にずぼりと何か秋の午後
冬日さす鼻の歪んでゐるやうな
冬ぬくし犬と目の合ふ曲がり角
アパートの廊下に凹み冬の夜
文庫二冊買へば時雨るる夜なりけり
目覚むれば冬日の満ちる六畳間
短日や母校のカフェで菓子を食ふ
加湿器の時折ぽこと冬の暁

長屋門

久世孝雄

庭に出て背伸びとあくび金木犀
耳少し違くなりしか蚯蚓鳴く
贈らるる学校田の今年米
椎の実を炒れば跳ね出す二三粒
くわりんの実どすんと静寂破りけり
浜菊や大波寄する日暮れ時
夕日浴ぶ幅十間の柿すだれ
書を読みて身ぶるひひとつ秋惜しむ
ぺたぺたと草地を歩く鴨の群
茶の花や農四代の長屋門

騎馬戦

有賀昌子

天 高 し 夫 婦 檜 に 太 郎 杉
散 り 散 り に 籠 へ 玉 入 れ う ろ こ 雲
騎 馬 戦 の 大 将 落 馬 い わ し 雲
秋 の 雲 絡 み し ま ま の カ タ ン 糸
読 み さ し の 桐 壺 の 巻 ち ち ろ 鳴 く
航 跡 の あ は ひ に 釣 瓶 落 し か な
秋 深 し ふ た つ の 闕 跨 ぎ け り
木 道 行 く 歩 荷 の 影 や 草 紅 葉
電 飾 の 樹 の 天 辺 に 星 冴 ゆ る
秋 の 日 に 黒 光 り し て お び ん づ る

松手入

國保八江

蝮 蛄 鳴くを 通夜の 帰りの 道すがら
菊 まつり 懸崖 菊を 先づ 並べ
一 列に 農家の 庭の 鶏頭 花
毛 越寺の 庭の 遣り 水秋の 蝶
夫 婦岩に 波また 波や 石露の 花
身をか たく歯 医者 の 椅子に 花カンナ
庭 少し 広くな りけり 松手入
自 転車を 習ふ 子の あと 草の花
校 門を出 て来る 子等に 落葉 降る
凧 の 夜更に 使ふ 電子 辞書

虎落笛

石原健二

夕闇に作なき畑の花茗荷
足元を巻紙ふさぐ障子貼り
枝しなふ石榴の口のやや笑ひ
雨もよひ人を遠くに蕎麦の花
手刈する稲足跡に水溜り
畑を出て家への道の時雨れけり
シヤキとした葉をわし掴み蕪を抜く
残る葉をよろよろ渡る冬の蝶
空風を背中に畝を立てにけり
竿たたみ魚籠ひきあぐる虎落笛

枯新秋秋手富煮
 葉米雨の作士浸
 散のの實りの遠し
 る粒そぼを温の鮎
 夕艶降啄いお萩に映えにけり膳
 暮やか音に寝入りけり
 れかな朝餉かな
 時の朝餉かな
 喪中便

枝みや子

し承^そ手風里雨雲
 と和^がにそ山の音海
 し色のするよのの
 との菊やぐ墓田にハ夕
 と雨浮つるかりと落ちし衣被
 降かりべとる腕の酒
 りつづく新松子
 群る雀かな
 日の富士の蓮の池
 伊の蓮の池

牛窪啓詞

大野芳久

寝るときも寝覚むるときもちちろ虫
蜘蛛の囲に大羽広げ秋の蝶
ひつぢ田にトランプの午後の風
朝霧や母の口笛節なくて
秋高しかつて遊びしいとこの計
遠目にもわかかる人あり櫛紅葉
三叉路のかたへに祠银杏散る

岡田香緒里

朝市の人のざわめき鱚雲
武家の屋敷土塀の脇に曼珠沙華
ひびのある陶器に植ゑし桔梗かな
ひと駅を歩きし昼の花芒
金木犀下校を告げる「七つの子」
遠出しして秋の日射しに鬼瓦
覚え書きに赤線を引く冬隣

◇ 1月・2月の句会案内

月・	日	時	句会名	会 場	連絡先
1月	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	8日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	10日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	31日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	市民会館うらわ	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	横浜・三溪園	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは31日(金)です。浦和コミセンも日程注意。

2月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は横浜のJR根岸駅。

吟行地は三溪園。句会場は神奈川近代文学館(港の見える丘公園)和室。

25年4月が雨だったので再挑戦。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ